

## 2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

### ③地域の小中学校との連携の例

#### 熊本/神奈川：拠点施設を活用した体験学習プログラムの展開

氷川町の立神峡里地公園は、平成 10 年度の宮原町里地等環境基本計画総合推進モデル事業により整備され、環境学習のフィールドとして活用されている。里地公園には、昭和 30 年代をモデルとした里地屋敷などの体験型宿泊施設（五右衛門風呂、かまど等）、モデル田畑、里山林、果樹園、竹林等が整備されており、氷川町では、小学校 6 年生に毎年里地公園での宿泊通学体験を実施している。また、総合的な学習の時間等で生きもの観察や地域文化も含めた田んぼの米作りなどのプログラムができる体制を整えている。

秦野市では、平成 19 年度に、従来の青少年野外活動センターが県産市産材を活用した表丹沢野外活動センターとして再整備され、青少年等の体験学習と環境教育・森林ボランティア等の活動拠点となり、里地里山保全体験などの環境プログラムを小中学校等と連携して推進する体制ができている。



宿泊通学体験（氷川）



総合学習米作り（氷川）

